

教室×家庭で育むお子さまの、成長ストーリー [エピソード]

Episode

learning, living and you

みんなで考える「不登校」

家庭×学校×子ども

3つのSTORY

小学生
高学年

「授業の何が分からぬか説明できない」
そんな息子に見違えるような変化が！

中学生

「自分なんていいいほうがいい」
心を閉ざしていた息子が、前向きに

中学生

自信と主体性を身につけ、
好きなことに打ち込めるように！

疲れた心身を整える＆
整え方を身につける

回復期間という考え方

発達×子育てお悩みQ&A

子育てのこんな時どうしよう？

学校以外で過ごす場所を紹介
居場所を選ぶ・増やすなら

第4号
2025.01

特集
～みんなで考える「不登校」～

子ども
学校×校×も
家庭



環境づくりのために 子ども親も、悩みをひとりで抱えない

2023年の文部科学省の調査によると、全国の小中学校で不登校の児童生徒は約35万人います。

これは、クラスに1人が2人が不登校であるという割合です。こうして見ると「不登校」は案外身近にあるといえるでしょう。

2016年に不登校支援に関する法律（※1）が公布され、その後、2019年には文部科学省から「学び続けられるのであれば、場所は学校でなくてもいい」という考え方が示されました。これまで、不登校の子どもへのサポートはました。これまで、不登校復帰を目指とするものでしたら、2019年の方針により、自分に合った場所で学び続けることが認められます。

ります。お子さまが不登校を経験されている時間は、自分を見つめ直し、新しい道を探る貴重な時間ともいえます。自分のペースで前に進むのを見守ることも大切です。

本冊子では、学校に行くことが難しく LITALICO ジュニアを利用されたお子さまの事例や不登校をご経験された方の経験談をご紹介しています。不登校でお悩みのお子さま、「家族が自分らしく生きるための手がかりになることを願っています。

り、傷ついた心の回復に時間がかかっている場合もあるかもしれません。しかし、学校に行くためのエネルギーが足りなかつた

られるようになりました。

学校以外にも、学びの場はたくさん存在し、頼れる施設や相談機関もあります。お子さまが大人になるための道筋は一つだけではありません。

2016年に不登校支援に関する法律（※1）が公布され、その後、2019年には文部科学省から「学び続けられるのであれば、場所は学校でなくてもいい」という考え方が示されました。これまで、不登校の子どもへのサポートはました。これまで、不登校復帰を目指とするものでしたら、2019年の方針により、自分に合った場所で学び続けることが認められます。

※1 文部科学省「教育機会確保法」

参考：文部科学省「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」



STORY #01

Index

特集

みんなで考える
「不登校」

STORY #01 P4-7

小学生高学年

「授業の何が分からぬか説明できない」そんな息子に見違えるような変化が!

STORY #02 P8-11

中学生

「自分なんていねいほうがいい」心を閉ざしていた息子が、前向きに

STORY #03 P12-13

中学生

自信と主体性を身につけ、好きなことに打ち込めるように!

P14-15

疲れた心身を整える&
整え方を身につける
回復期間という考え方

P16-17

子育てのこんな時どうしよう?
発達×子育て
お悩みQ&A

P18-19

居場所を
選ぶ・増やすなら

「授業の何が分からぬか説明できない」 そんな息子に見違えるような変化が!

学校がつらい場所になってしまった息子

小学5年生から学校に行き渋るようになったHくん。「分からないこと」を学校の先生に伝えられず、授業や友だちとの会話でフラストレーションが溜まっていました。「ITALICO ジュニアでは「ヘルプ要求」や「文章の組み立て」を学び、声かけや教材の工夫で、「両親も驚くほどイキイキとした表情を見せるようになりました。Hくんの成長と取り組みを」両親に伺いました。

周りと自分との違いに気づき始め不登校に

小学5年生になった頃から、息子はなかなかすつきり起きられず、学校に行くのがつらそうな様子が出てきました。学校での学習内容も難しくなり、友だちとの会話にもついていけなくなっていたようです。求められることと自分の能力のギャップや周りの子との違いに気づき始めたんだと思います。勉強でも「分からない」と言うと、「何が分からないの?」と言われてしまう。息子はうまく説明できないから、だったら言わないでなんとか自分で解決しようとしてしんどくなっていたのではないかと思います。

言葉で説明するのが得意でなく、うまく言葉が出ないことも多かったです。

思春期にも差し掛かる年齢でもあり、親への反発心から家でも会話が減ってきました。学校に行きたくない理由もストレートには言わず、「足が痛い」「頭が痛い」と訴えるんです。でも、数時間後には元気に遊ぶこともあります、「足が痛くなれば学校に行こう」と責めるような言葉をかけてしまっていました。この頃は、私自身なぜ息子が学校へ行けないのかの原因が分からずモヤモヤしていました。この頃は、本人は自分の気持ちを伝えて「大丈夫だよ」と言われるのではないかと感じていたのかもしれません。周囲は「(学校でも)適当にやり過ごせば1日終わる」と思いがちですが、息子にとっては長く苦痛な時間だったのだろうと思います。

「先生に見せるんだ！」自ら意欲的に行動するまでに

自分のすべてを肯定して受け止めてくれる場所

わらにもすがる思いでインターネットから「ITALICO ジュニア」に問い合わせ、体験授業を受けることに。最初は乗り気ではなかつたものの、授業後には「楽しかった！」と目を輝かせ、「また行く！ 明日も行く！」と意欲を見せてくれました。

「こんなに自分のことを話せるんだ」と驚き、久々に「やりたい」「行きたい」といった言葉を聞けたことが嬉しかったです。

ITALICO ジュニアは自分をすべて受け入れ、肯定してくれる場所だと感じたようです。

授業では、カードゲームや好きなテーマを交えて、相手に質問をする練習をしたり、「教えて」「教えて」といったヘルプを要求するという練習をしていました。好きなことを交えながら楽しく学べているようです。先生は「ITALICO ジュニアで

めっちゃ説明上手だねって言われた！ そんなこと今まで言わなかったことなかつた！」と大興奮で帰ってきました。家庭でも褒めよう心がけていましたが、家族以外から褒められると、目の輝きがまったく違い、本当にびっくりしました。徐々に本人から「こうしたい」という要求を聞き出せるようになりました。今は時間割をみて「ここからだつたら行ける」と自分で決めて学校に行ける日も増えています。

以前は「学校に行く」「休む」の2択だったのが、途中から行つてもいいんだ、ということが分かつて、気持ちが楽になったようです。学校に行かないと決めた日は、本人の気持ちを尊重して、「そつか、今日は休もうか。明日、行けそうだったら行ってみよう」と学校に行きづらくならないよう声かけを意識しています。



褒める関わりで息子との会話が増えた！

授業の見学やペアアレントトレーニングを通じて、共感しながら聞く姿勢が身についたことも、息子との会話が増えた理由かなと思います。先生の返答、声かけは、本当に参考になります。褒める際はその場で「今のよかつたね」と声をかけるようにし、反対に好ましくない行動は、指摘しない、伝えない。息子自身が自制できるまで待つことが大事と教えていただき、心がけています。なんといっても本人に人の言葉を素直に聞ける余裕が出てきたことは大きいですね。通い始めて2～3ヶ月後には息子に変化が見られ、帰り道には明るく話すことが増えました。

私たちも息子のできることのほうに目を向けるように、意識が変わつきました。毎日学校に行かなくともいい、やりたいことができるよう頑張れ



感謝しています。

るよう応援しよう、というスタンスになったかな、と思います。違う視点で気づかせてもらえることも多くあります。LITALICOジュニアに行く前に「先生に見せるんだ！」と自らパソコンで資料を作つたりクイズを考えたりするようになり、以前の消極的な姿から大きな変化が見られました。褒められることでモチベーションが上がり、できることが増えて、いきいきとした表情をよく見るようになりました。子どもへの接し方のヒントも教えていただき、LITALICOジュニアの先生には感謝しています。

Message

当初Hくんは、言葉での説明に苦手意識があり、主語の使い方や時系列の整理に課題がありました。授業では、5W1Hを意識した文章の組み立て、主語の使い分けなどの課題に取り組んできました。現在は、ご両親のサポートもあり、「完璧」にこだわらず、失敗や妥協も受け入れることが大切だと理解できるようになりました。授業を楽しみに通ってくれるHくんの姿に、私も多いエネルギーをもらっています。今後も自分の好きなことや、挑戦してみたいという気持ちを大事に、楽しく学び続けていってほしいなと思います。

LITALICOジュニア 巣鴨教室
指導員より

いつでも 無料相談でできること／\無料相談でできること／
・お子さまの困りごと相談
・居住地域での相談先
・家での親子の関わり方



「自分なんていないほうがいい」 心を閉ざしていた息子が、前向きに

食事も取れなくなるほど追い詰められていた日々

中学2年生から学校に通えなくなつたトくん。「自分なんていないほうがいい」と思い詰め、食事も取れない日々。夏休みから「LITALICO ジュニア」を利用し始め「LITALICO ジュニアの先生との信頼関係を築く中で、少しずつ自分の感情と向き合い、気持ちを言葉にできるように」。今回は、お母さまにその変化について伺いました。



変化の鍵は、お子さまのペースを優先した配慮

不登校の理由について「よく分からない」と話されるお子さんは多くいます。元々自分の気持ちを語るのが苦手なら、なおさら答えられず保護者さまに理由を聞かれても困ってしまったのでしょう。今回 LITALICO ジュニアの授業で少しずつお子さまが自分の気持ちを把握する練習をし、家庭でもお子さまのペースで話せるよう保護者さまが配慮されたことが変化につながったのだと思います。お子さまに合わせた進路選択をし、無理なく過ごせるよう配慮されているのもよい点ですね。

公認心理師 / 臨床心理士 緒方広海 監修

学校に行けなくなり、気持ちが不安定になった息子

息子は中学校に入学してしばらくは毎日通学していましたが、次第に「学校に行きたくなかった」と言い始めました。中学2年生になると、部屋で布団をかぶり「自分なんていいほうがない」と口にするようになります。息子は感情を言葉にするのが苦手で、ただ「行きたくない」と繰り返すだけ……。私は

学校に行くように声をかけ続けた。息子は毎日声をかけていれば、いつか学校に行けるようになると信じていたんです。しかし、息子は

ボーッゲームやカーデゲームを見せる」とことで、息子は負けても感情をコントロールする練習をしました。こうして、対人関係に必要なスキルをあそびながら習得していきました。

また、1週間の生活を振り返る時間も設けられ、「今週はどちらくらい」はんを食べられた?」

「どれくらい寝られた?」「樂しかったことはあった?」などLITALICOジュニアの先生から質問に息子が点数で答えます。低い点数の項目については、先生が一緒に原因や解決策を考えくださり、息子の状態を具体的に把握でき、何をするべきなのか、具体的なアクションを考えやすくなりました。

LITALICOジュニアの授業では、あそびを通して感情のコントロール方法を学びました。二つを知りました。



自分で気分転換ができるようになり、家庭の雰囲気も明るく変化

LITALICO ジュニアの先生からは、息子とのコミュニケーションについてアドバイスをいただきました。

特に役に立ったのは、2択の質問を使って息子の考え方や気持ちを引き出す方法です。例えば、「何で学校に行きたくないの?」と尋ねると息子は答えに詰まりますが、「先生が嫌なの? お友だちが嫌な?」といった選択肢を示すと、「友だちが嫌なわけないじゃんか」と吐嗟に答えるんです。

この方法で「学校の先生とうまくいっていないのかも」と気づくことができました。こうして息子と会話をしていくうちに、学校での先生の指示を受け止められず、大人数の環境や授業の理解不足が苦しさを増していたことが判明しました。

LITALICO ジュニアの先生のアドバイスで、息子が学校に行きたくない理由や本音が少しづつ見えてきたんです。

息子の変化で一番大きかったのは、怒って大声を出したり「消えたい」と言ったりすることがなくなつたことです。

以前は、息子のネガティブな発言で家全体が暗い雰囲気に包まれていましたが、今はそのようなことはありません。また、ゲームで負けると暴れたり大声を出したりしていた息子が、今では「外に散歩に行ってくる」と言つて自分で気分転換ができるようになりました。

私も息子の反発や無視について悩むことが減り、気持ちが楽になりました。最近では、家族全員で楽しく食事やボーネードゲームをする時間が増え、息子との関係も良好になっています。



子どもの気持ちを受け止めることの重要性

以前は息子のできない部分に 対して、自分の経験を基準にして「（）うしなきやダメ」と強く 言う」とがありました。しかし、 LITALICO ジュニアの先生から 子どもの気持ちを受け止める重 要性を学び、まずは息子の気持ち を理解することを意識するようになります。

アドバイスをする時も、まずは 「それはそうだね」と共感して から「（）うするといいんじやない？」と提案するようになります。 こうした変化により、息子も私に対して心を開いて話すようになつたと感じています。

私はだけでなく、家族全員 が変わら必要があると考え、

LITALICO ジュニアで学んだコミュニケーション方法を家族にも共有しました。家庭内の課題で悩んだ時も、じっくり相談に乗ってくれ、家族全体のコミュニケーションが改善したのは先生のおかげだと思っています。



Message



LITALICOジュニア
立川教室
指導員より

教室に通い始めた当初、Tくんは自分の気持ちをうまく表現できず、「自分なんていいいほうがいい」といった言葉を多く発していました。教室では、Tくんの気持ちを代弁しながら受け止めることを心がけました。また、ご家族には、ポジティブなコミュニケーションを促進するため、Tくんの好きなゲームや漫画について話すことなどを提案しました。こうした取り組みによって、Tくんは「理解してもらっている」と感じ、徐々に心を開いてくれるようになりました。これからも困難があるかもしれません、身近に味方がいることを忘れずに、さまざまなことにチャレンジしてほしいです。

いつでも 無料相談でできること／\無料相談でできること／
・お子さまの困りごと相談
・居住地域での相談先
・家での親子の関わり方



自信と主体性を身につけ、 好きなことに打ち込むように！

毎日つらい気持ちに襲われていた……

中学生の頃、クラスメイトの心ない言葉をきっかけに学校に行けなくなったり、LITALICO ジュニアの利用を始め、少しづつ自信を取り戻し、約2年が経過した今では、自分の意思で物事を決断し行動できるように。今回は、Nさんの叔母さまとおばあさまにこれまでの変化について伺いました。

中学校でクラスメイトから傷つく言葉をかけられたことがきっかけで学校に行けなくなりました。学校に行けなくなったりは、無気力になり、とても苦しそうにしていました。

時々メールで「苦しい」「つらい」とだけ伝えてくることもあり、私から見ると「何も楽しいことがない、誰か助けて」とSOSサインを送っているように見えました。

本人は苦しい状態から抜け出したい気持ちはあるものの、どうしたらいいのかが分からずに行き詰まっていたんです。



周りを気にしない「自分は自分」という感覚

元々新しいことに不安を感じやすく、対人関係で傷ついた体験も合わさって人と関わること自体がとても怖くなっていたようです。それがLITALICO ジュニアの先生と出会い、楽しい体験を積み重ねることで徐々に苦手意識が減つていったように思います。ご家族も協力してお子さまが自分の気持ちを語りやすいように配慮し、そして受け入れられるという経験を積み重ねたことで「自分は自分」という感覚が強まり、少し自信をもって外に出られるようになったのではないかと思います。

主体性が身につき、「好き」にまっすぐ取り組めるようになりました。

LITALICO ジュニアの授業では、「保健室だったら安心」「家族と一緒に登校できる」「と話し合いながら「これなら学校に行ける」という条件を導き出してくださったんです。

学校とも連携して、まったく登校できない状態から、テストやイベントなど重要な日を中心自分ペースで登校できるようになります。

「こうこう困り」とがある時はどうする?」と事前にイメージトレーニングを重ね、

「LITALICO ジュニアで先生に相談できる」という心の支えがあつたことが安心感に繋がったのだと思います。言葉のかけ方、関わり方の一つひとつがどれも私にとっては新鮮で、勉強になりました。

LITALICO ジュニアに通い始めた頃、先生が「Nさんがどう思っているかを大事にしてください」とアドバイスしてくださいました。それからは会話の中で

「どうしたい?」と聞くよう意識するように。その結果、今では私が聞かなくても自分の気持ちを素直に話してくれるようになりました。

ほかにも自分のことを自分で決められるようになったことも大きな成長です。以前は「どちらもいい」と答えていたのが、今では自分のやりたいことを発信できるようになりました。自立に近づく大きな一歩だと感じています。



Message



LITALICOジュニア
大宮教室
指導員より

授業では、まず安心できる環境づくりを最優先し、Nさんの意見を尊重し共感を示し、「自分の意見を言っていいんだよ」と伝えました。コミュニケーションを重ねるにつれて、Nさんは次第に「自分がどうしたいのか」「何が嫌なのか」を相手に伝えられるように。自己認知が深まったことで、自分と他者の違いを理解し、私に対して「私はこれが好きだけど、先生はどう?」と聞いてくれる様子も見られるようになりました。これからもNさんが挑戦したこと、不安に感じることを一緒に整理しながら一つずつできることを増やしていく、一緒に成長を見守っていけたらと思います。

いつでも 無料相談でできること／
無料相談

- ・お子さまの困りごと相談
- ・居住地域での相談先
- ・家での親子の関わり方



疲れた心身を整える & 整え方を身につける

回復期間という考え方

安心できる場所がある、受け入れてくれる人がいる



しっかり疲れをとる

不登校のお子さまの大半は、悩んだ末に学校に行けなくなっています。そのため、不登校になった頃には、精神的にも身体的にも疲れ切ってしまっています。まずは睡眠をしっかりと疲れをとり、起きているときも何かしようとせず、リラックスして過ごしましょう。



不登校の理由はさまざままで、人によっては理由が「分からない」場合もあります。そのため、不登校であるお子さま本人は、学校に行きたくない理由をうまく説明できないこともあります。

「家族もなぜ子どもが学校に行けないのか分からず心配する気持ちから、「学校に行きなさい」「なんで学校に行けないの」と問い合わせるような方をしてしまうことがあるかもしれません。しかし、学校で安心して過ごすことのできないお子さまがご家族から問い合わせられると、家中でも安心することができなくなりってしまいます。

不登校のお子さまにとって大切なのは、安心できる場所があり、自分の状態を受け入れてくれる人がいることです。



を楽しみ ギーを充電

身体的にも疲れ切つから、やりたいことちに、少しずつ元気やる気や向上心が芽す。ゲームや読書などがやりたいことを楽をつくり、エネルギーるようにしましょう。



精神的に
いる状態
をしているう
になってきて
生えてきま
どお子さま
しめる時間
を充電でき



気になることを
抱え込まない

専門家に 相談してみる

生まれつき脳の特性や感覚過敏などが背景になり、学校で過ごしにくさを感じ、不登校になるお子さまもいます。お子さまの様子で気になることがあれば、医療機関や保健福祉センターなどに相談するのもよいでしょう。専門家からアドバイスを受けることで状況が改善することもあります。



できそうなことを やってみる

体力や気力が戻ってきたら、家の手伝いや散歩など、できなうことを探して取り組んでみては。日中の決まった時間にできることであれば生活リズムも整うでしょう。



大切なことはそのタイミングに合わせて動いていくことなどで、お子さまの回復を信じて関わるとよいでしょう。

もしかしたら、ずっとこのまま家にいることになるのではないかと不安に感じ、何か働きかけなければと思われる方も多いかもしれません。そのようなお気持ちになるのも無理もないことかと思います。しかし、お子さまがある程度回復してきたときには、「自身からいろいろと動き出していくタイミングがあります。

大切なことはそのタイミングに合わせて動いていくことなどで、お子さまの回復を信じて関わるとよいでしょう。

子育ての「こんな時」どうしよう？

発達支援の専門家が質問にお答えします！

お悩み

娘は聴覚過敏があり騒がしい環境が苦手で登校を嫌がります。学校で個室を用意するのは難しいとのこと。学校とうまく連携するポイントはありますか？

小学2年生の保護者さま

せっかく勇気を出してお願いしたのに、配慮を難しいと言わるとつらいですよね。

学校における合理的配慮は文部科学省のWebサイトによる「現在必要とされている『合理的配慮』は何か、何を優先して提供するなどについて関係者間で共通理解を図る必要がある。」と記載されています。

ですので聴覚過敏に対してどのような配慮であれば学校で実施できるのか、話し合って決められるとよいかと思います。

席の配置やイヤーマフの使用など有効な手立てが検討できるかもしません。



お悩み

息子は数年間不登校です。中学校も行けなかつたらどうしようと不安です。中学校入学に向けて、今からできることがありますか？

小学6年生の保護者さま

不登校だと先の見通しをもつためのモデルが少ないので、不安を感じるもの自然なことかと思います。

ポイントは「お子さまが今どのような状態なのか」を知ることです。まだ外出も難しいという状態であれば、まずは「日々を元気に過ごせる」ことを目標に取り組めるとよいでしょう。もし「自身だけでお子さまの状態を判断するのが難しければ、学校の相談員さんなどに相談して、お子さまの状態について一緒に考えてもらえるとよいか」と思います。



不登校×子育て

お悩みQ&A

毎朝「おなかが痛い」と学校に行けません。本当の理由はほかにあるのでは? 関わり方に悩んでいます。

中学1年生の保護者さま

理由が分からるのは保護者として不安に感じることだと思います。一方でお子さまが理由を話さないのは、理由を話したくない要因がある、そもそも自分でも何が理由なのかよく分からない場合などもあるかと思います。基本的には無理に聞き出そうとはせず、「おなかが痛いのは何かストレスや嫌なことがあるサインかもしれないから、何か気になることがあつたら相談してね」と伝えてみては、も直つしていくかと思います。

学校に行かずゲームばかり、生活は昼夜逆転。お風呂も面倒だと入らない日もあります。

中学2年生の保護者さま

生活が乱れるところのままでよいのかと心配になりますよね。ただ、ゲームに夢中になつたり、昼夜逆転したりしているのは、学校のことを意識したくない、考えるのがつらいという表れかもしれません。ただゲームをさせないといふのではなく「ゲームと同じくらい楽しいこと」を一緒に考えて、やってみるというところからはじめられるといいでしよう。それが日中できる」とであれば、自然と昼夜逆転

不登校になつて以降、勉強をしなくて不安です。家庭学習はどうのように進めたらいいでしょうか?

小学5年生の保護者さま

自主学習は不登校でなくても難しいことです。勉強を意識することで周囲のお子さまから遅れを自覚し、劣等感から苦しくなることもあるので、無理に向き合わせるのは逆効果になることもあります。もし学習をするのならお子さま自身が興味・関心のあるものからはじめてみましょう。また本を読めば漢字の学び、買い物をすれば計算の学びにもなるので、日々の生活の中から学習につながるものを見つけるのもよいでしょう。

監修



公認心理師／臨床心理士
緒方 広海

発達障害者センター、子ども家庭総合センターなどで乳幼児から成人期までの精神保健福祉、障害福祉の分野で幅広く理学療法業務に携わった経験をもとに、株式会社「ITALICO」で支援に関する指導員の研修などを担当。



150問程度の質問に回答

特性や困りごとの傾向

具体的な解決法のヒント

LITALICO
発達特性検査

LITALICO発達特性検査とは、発達が気になる子どもの保護者さま向けの検査です。Webですぐに結果が出て、お子さまの特性(対人/多動/感覚/学習など)やその背景、具体的なサポート方法が分かります。

詳細は
こちら



居場所を選ぶ・増やすなら

学校以外でも、子どもが「自分らしくいられる場所」があります。

フリースクール

何らかの理由から学校に行くことが難しい子どもたちが、自由に学びたいことを選びながら学ぶ場です。フリースクールへの登校が学校の出席扱いとされるケースもあります。

フリースクールは民間の教育機関のため、方針や教育理念の違いによって形態や費用もさまざまなので、お子さまに合ったところを見極めるのが大切です。

東京都フリースクール等 利用者支援事業（助成金）

フリースクールや適応指導教室を利用する子どもたちやその家庭を支援する取り組みです。保護者に対し利用料の助成や情報提供、相談支援をおこない、子どもたちが自分に合った学びの場で成長できるようサポートします。

※助成金を受けるには条件がありますので、詳細は東京都フリースクール等利用料助成金事務局にお問い合わせください。

教育支援センター (適応指導教室)

各地域の教育委員会が設置している公的な施設で、カウンセリングや授業を受けたり、スポーツやゲームなどの集団活動に取り組むことができます。

学校と連携できれば、適応指導教室に通った日を学校の出席扱いとされる場合もあります。

好き×特性×習い事

同じ関心をもつ人たちと交流できる・こだわりを発揮できる、そこが居場所となることもあります。例えば、ゲームやロボットに興味がある場合は、プログラミング教室もいいかもしれません。

LITALICO ワンダーは、個性最適型のプログラミング教室です。ゲームやロボットなどのものづくりを通して、目標を達成するプロセスが自己肯定感を育みます。

お問い合わせ LITALICO ワンダー[®]
<https://wonder.litalico.jp/>

無料体験あり

お問い合わせ
LITALICO ジュニア
<https://junior.litalico.jp/>

無料相談あり



無料相談のお申込みは
こちら

発達支援の教室

学習の遅れやコミュニケーションへの苦手意識があり、学校に通うことが難しい場合、一緒に解決してくれる場所があれば、お子さまの苦しさが和らぐかもしれません。発達支援の教室では学習サポートの他、日常生活スキルの習得や集団生活への適応などの支援をおこなっています。

LITALICO ジュニアは、お子さまのニーズや特性に合わせたオーダーメイドの指導でお子さまの課題にアプローチし、あらゆる困りごとの根本解決を目指します。外出が難しいお子さまが自宅で授業を受けられるオンライン指導も実施しています。

人はちがう。
それでいい。
そこからはじまる。



株式会社LITALICOは「障害のない社会をつくる」をビジョンに掲げ、働くことに障害のある方に向けた就労移行支援を開始後、児童発達支援や放課後等デイサービス、幼児教室＆学習教室、プログラミング教室の教育分野へ事業を展開。店舗運営の他、従来の分野に高齢者福祉を加え、当事者の方やそのご家族、企業などそれに向けたポータルサイトやWebサービスを展開。

2016年3月に東証マザーズに上場、2017年3月東証一部に市場変更。

2022年4月に東京証券取引所プライム市場に移行。

この冊子は
LITALICO ジュニア（パーソナルコース）の
協力のもと制作いたしました。



読者アンケート

LITALICO ジュニア
「Episode 第4号」

いつもLITALICOジュニア発刊「Episode」をご愛読

いただきありがとうございます。

本冊子を通して、より有益な情報を発信したく、ぜひ読
者の皆様のご意見や感想をお聞かせください。

アンケートにご回答いただいた方には、過去発刊分の
「Episode」のPDFデータをお送りいたします。

アンケート回答
フォームはこちら

